

2004年9月28日
株式会社博報堂

博報堂、AARP（旧全米退職者協会）と相互協力（コラボレーション）合意

博報堂は、9月21日に、全米を中心とする世界最大の高齢者NGOである、AARP（旧全米退職者協会）と、今後相互に連携を取り合い、協力関係をもつことに合意しました。

AARPは現在、全米の50歳以上の会員によって構成され、3500万人の会員を有する世界最大の高齢者組織です。全米の50才以上の約半数が加盟しており、現在職を持っている人も44%おり、1999年には、名称を「全米退職者協会」から「AARP」に変更致しました。現在は、ベビーブーマーを中心とした50+のエルダー世代のインサイトとニーズをとらえ、さまざまな政策提案や会員サービスを行っています。

博報堂では、2000年6月に「エルダービジネス推進室」を設立、50才以上の生活者を「エルダー」と規定し、エルダー層の研究およびエルダー層をターゲットとした、マーケティング手法の開発・提案を行っています。団塊世代が50代の中心となり、今後、「金時持ち（お金も時間もあふ）」であるエルダー層が活発な日本の消費活動の中心をになうとも言われ、消費・生活などあらゆる面での「エルダー」への注目はますます高まっております。

AARPとは、2003年より情報交換などの交流を深めており、同推進室が発表したレポート「50代レポート2003 Jeans 50's」は、英訳されAARPのインターナショナルのホームページでもすでに紹介されております。

今後両者は、「調査データの相互利用」「日米における相互の活動への協力」「日米における市民交流の相互協力」などで、お互いに協力しあっていくこととなります。

博報堂では今回の合意を基に、エルダービジネス推進室が中心となって、エルダー生活者の研究・ネットワーク開発・エルダーマーケットの開発などに注力し、得意先企業への一層のサービスの提供と、来るべき少子高齢化社会にむけて情報発信を行ってまいります。

AARPについて

AARPは現在、会員数は全米を中心に3500万人と言われ、世界最大の高齢者組織です。会員数だけでなく、影響力も世界で最も大きいNPOで、昨年4月にスペインのマドリッドで開かれた「第2回高齢化に関する世界会議」（国連主催）のNGOフォーラムにおいても、国連による全体の方向性設定にもサジェッションを求められていました。

AARPは米国では大統領選も左右すると言われる程の影響があります。それを支える活動として、50+のエルダー世代のインサイトとニーズをとらえた「アドボカシー（政策提言）とそれを実現させるキャンペーン展開」「きめ細かな会員サービス」を行っています。また、これを支援する企業の協力も積極的に受け入れています。発行する「AARPザ・マガジン」は2400万部を誇り、全米のエルダー世代への有力な広告媒体にもなっています。

また、現在のテーマのひとつに「ベビーブーマー」があり、50代の現役会員が増えたことにより、旧称の全米退職者協会という名称を変更し、その略称であったAARPを正式名称としました。

<http://www.aarp.org>

エルダービジネス推進室について

2000年6月、社会の高齢化に対応すべく、世に先駆けて設立されたエルダー研究の専門組織です。エルダー生活者を50歳以上と捉え、その生活意識の“変化”に注目して、ナレッジを蓄積。エルダー世代のみならず、高齢社会全体の可能性を探っています。

とくに、調査パネルとしては国内で初めての、50代～80代にわたる全国規模の調査パネル<HOPEサーベイ>を新たに開発し、2,000年に第一回調査をして以来、消費を動かす鍵の一つを握るエルダー世代の素顔について、定期的にご報告しています。今後、ますます高齢者層の消費の拡大が期待される中、企業のこの層に対する注目度も高まってきております。

当室では、エルダー生活者の調査・研究活動全般から個別商品のコミュニケーション戦略策定まで、博報堂全社の体制を通じて幅広く対応することで、高齢化社会がもたらす様々な社会課題等にトータルソリューションを提供する体制を整備しております。（人員60名）

< 本件に関するお問い合わせ >

博報堂

広報室
エルダービジネス推進室

宮川・西村
阪本・田中

tel 03-5446-6161
tel 03-5446-4355